

0123

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千九十號

海軍大臣官房

昭和十七年五月十四日(木)

○ 令 達

官房機密第三三六五號ノ三

本年官房機密第三三六五號ノ二中「司令部附」ヲ「司令部勤務」ニ改ム

昭和十七年五月一日

海軍大臣

(参照) 前記官房機密號ハ特設海上護衛隊司令部職員ノ經費ハ司令官ノ定ムル所ニ依リ司令部附主計科准士官以上ノ者又ハ部下艦船部隊主計長ヲシテ掌理セシムルコトヲ得ル件ナリ

官房第二九〇六號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十七年五月十三日

海軍大臣

表中第二十三海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「専任二人判任」ヲ「専任五人判任」ニ改ム

(昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(昭

和十七年二月十九日本欄参照)

官房機密第五八九八號

昭和十七年五月十四日

海軍大臣

各廳長殿

服役手續ニ關スル訓令

昭和十五年九月十六日以前ニ任用又ハ採用セラレタル現役期間特例ノ各科士官ニシテ海軍武官服役令第八條第一項ノ規定ニ依ル現役ニ服スルコトヲ志願スル者ハ來ル七月三十一日(技術關係士官ニ在リテハ六月十日)迄ニ到達スル如ク昭和二年達第百五十三號規定ノ様式(情況ニ依リ電報)ニ依リ出願セシムベシ
服役延期中ノ者及曩ニ右志願ヲ許可セラレザリシ者モ更メテ出願セシムルコトヲ得

官房機密第五八九九號

昭和十七年五月十四日

海軍大臣

海軍公報 (部内限) 第四千九十號 昭和十七年五月十四日

四八一

海軍公報(部内限) 第四千九十號

昭和十七年五月十四日

四八二

各鎮守府司令長官
大湊警備府司令長官
馬公警備府司令長官
鎮海警備府司令長官
殿

記

兵器簿ノ件通達
各艦船兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正ス

區分	類	別	品名	改正事項	摘要
改正	九四式	四十糎砲	火 管 帶	砲一門ニ付 二個	現定數一門ニ付一個ヲ二個ニ 改ム
同	四十五口徑	四十糎砲			
同	四十五口徑	三十六糎砲			
同	五十口徑(二號)	二十糎砲			
同	十五糎	五糎砲			
同	五十口徑	十五糎砲			
同	五十口徑	十四糎砲			
同	五十口徑	十二糎七砲			

○ 選 牒

經理第二〇〇號ノ八

昭和十七年五月八日

海軍省經理局賜金國庫債券取扱官吏
各所轄長殿

支那事變行賞賜金請求ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ海軍各廳(艦團部隊ヲ含ム)勤務者ニ

シテ家族ノ住所ニ於テ賜金ヲ受領セントスル場合ノ賜金請求書記載要領左記ノ通一定セラレ候

記

- 一 現住所欄ニハ家族ノ現住所ヲ記載スルコト
- 一 官氏名ハ賜金受給者本人ヲ記載シ家族名ハ記載セザルコト

一 勤務廳名ハ官氏名右肩ニ記載スルコト(別紙記載例參照)

(別紙添)

○ 辭令

海軍中佐 柴 北 明

海軍武功調査委員ヲ命ス

支那事變從軍記章授與調査委員ヲ命ス(陸海軍省)

(各通)

海軍機關中佐 内田 四五郎

海軍主計中佐 吉岡 清作

購買名簿調査委員會委員ヲ命ス

海軍機關大佐 落合 精一

購買名簿調査委員會委員ヲ免ス(以上各同)

農林技手 細溪 勝次

(各通)

同 緒方 勇
同 林 貫一

第二南遣艦隊司令部附ヲ命ス(各同)

○ 雜款

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

横須賀郵便局經由

ウ五〇 ヲ參七氣付(軍事郵便)

(軍艦常磐)

吳郵便局經由 第二十三海軍軍用郵便所氣付

(軍艦北上)

横須賀郵便局氣付 海軍安田部隊

(横須賀鎮守府第五特別陸戰隊)

横須賀郵便局氣付 ウ一〇五 ウ五九 ウ壹貳〇

(第四海軍經理部ラバウル支部)

○移轉

豊橋海軍航空隊(假稱)及香取海軍航空隊(假稱)設立準備事務所ハ横須賀海軍航空隊内ニ移轉セリ

○事務所撤去
第三十驅潛艇艦裝員事務所ヲ五月十三日撤去セリ

○正誤(齊)
本月十一日辭令欄海軍主計兵曹長伊藤忍辭令文中「第三十一通信隊」ハ「第二十一通信隊」ノ誤

博多海軍航空隊飛行學生海軍大尉佐股正雄、同山下和彦本月四日飛行訓練中遭難殉職、同十日同隊ニ於テ海軍葬儀執行セリ

(別紙)

賜金請求書

(昭和十七年五月十四日海軍公報(部内限))

賜金額	一金五百圓也	官報登載年月日及發表番號	昭和十五年四月二十九日 第一二、三四五號
受領スベキ日本銀行本、支店代理店又ハ郵便局所名	<small>(本項ハ國庫債券額面金額ニ滿タザル納數金額アル場合ノミ之ヲ記載ス)</small> <small>(御沙汰書又ハ辭令書裏面ニアリ)</small> 長野縣上高井郡那須坂町字坂田一〇番地 神奈川縣鎌倉市坂ノ下五番地		
本籍地	現住所		
右請求候也 昭和十七年五月八日 軍艦長 門 海軍大臣 殿 海軍少佐 大和武夫 印			
前書ノ通辭令書ニ對照シ正當受給者ニ相違ナキコトヲ證明ス 昭和 年 月 日 (市區町村長ノ證明ヲ要セス) <small>(海軍各艦ニ勤務スル者ニ在リテハ本項ノ證明ヲ要セス)</small>			

0127

海軍公報 (部内限) 第四千九十一號

海軍大臣官房

昭和十七年五月十五日(金)

○令 達

官房第二九三九號
 今次戰役中外戰部隊ニ屬スル艦船部隊ニ於テ支給スル海軍給與令第八十六條ニ依ル嗜好食料ハ必要ニ應ジ其ノ一部又ハ全部ヲ適宜糧食品ニ代ヘ給與スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ糧食品ヲ換給シタルトキハ海軍省軍需局長及海軍省經理局長ノ定ムル所ニ依リ其ノ價格ニ相當スル食料ヲ減給スベシ

昭和十七年五月十五日

海軍大臣

(参照) 海軍會計法規類集二卷一八六頁及三二六頁

○通 牒

官房機密第一二八〇號ノ一〇

昭和十七年五月十五日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄所在地區別符表(其ノ四)中ニ

シン ガラ ジャ セ 貳九 ヲ加フ

同 部隊區別符表(其ノ二)中「第七設營班 ヲ九九」及「第十設營班 ヲ壹貳壹」ヲ削リ同部中ニ左ノ如ク加フ

臺南航空隊	ウ壹參四
第百四航空廠	ウ壹參五
第二聯合特別陸戰隊	ウ壹參六
橫鎮第五特陸	ウ壹參七

海軍公報(部内限) 第四千九十一號 昭和十七年五月十五日

四八五

吳鎮 第五特陸	ウ壹參八
佐鎮 第五特陸	ウ壹四壹
舞鎮 第三特陸	ウ壹四貳

軍務一機密第三五〇號

昭和十七年五月十五日

海軍省軍務局長

横須賀鎮守府 參謀長殿
各艦隊

木更津海軍保健所施設其ノ他ノ件中進

首題ノ件左記ノ通定メラレ候條可然取計相成度

記

一 要旨

主トシテ航空機搭乗員及潜水艦乗員ニ對シ疲勞ニ因ル病的症狀移行直前ニ於テ適當ノ休養治療ヲ施シ以テ要員ノ充實、確保ヲ圖ル爲キ千葉縣下ニ簡易ナル保健所ヲ設ク

二 施設要領

(イ) 設置場所

千葉縣君津郡周西村字人見(木更津町ヨリ南へ約八軒青堀驛ヨリ西へ約二軒ノ海岸舊青堀鑛泉)

三 使用要領

(ハ)(ロ) 木更津海軍航空隊司令ヲ本保健所ノ管理官トス
收容人員 約三十名

(イ) 保健所ヲ使用セシムル者ノ範圍ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ心身ノ疲勞著シキモノトシ所轄長之ヲ許可スルモノトス

(一) 空中勤務又ハ潜水艦勤務ニ服シ戰地又ハ之ニ準ズル地域ニ行動シ歸還シタル者

(二) 高々度飛行、長時間飛行、夜間飛行、深々度潜航、長時間潜航等ノ勤務ニ服シタル者

(三) 教育ノ配置ニ在リテ長時間特殊勤務ニ服シタル者

(四) 其ノ他身體狀況上特ニ軍醫科士官ニ於テ必要ト認ムル者

(ロ) 所轄長ハ前條ニ該當シ入所ヲ要スト認メタルモノアルトキハ其ノ名簿ヲ附シ管理官ニ協議ノ上入所セシムルモノトス

(ハ) 入所員ノ身上取扱ハ艦(隊)内居住ニ準ズルモノトス

(ニ) 入所期間ハ三日間ヲ以テ一期トシ引續キ入所ヲ要スル場合ハ改メテ證議スルモノトス

(イ) 入所期間ハ三日間ヲ以テ一期トシ引續キ入所ヲ要スル場合ハ改メテ證議スルモノトス



(ホ) 管理官ハ保健所使用内規ヲ定メ所屬長官ノ認許ヲ受ケ之ヲ實施スルモノトス

四 經 費
保健所施設其ノ他ニ要スル經費ハ官費支辨トス

軍需糧第四〇號
昭十七年五月十五日
官房第二九三九號ニ依ル嗜好糧食品ノ支給手續左ノ通定ム

海軍省經理局長
海軍省軍需局長

嗜好糧食品支給手續

- 一 嗜好糧食品ノ支給ハ左記ニ依ル
 - (イ) 定量ニ依ル支給ハ別表第一ニ依ル
 - (ロ) 必要ニ應ジ兵備品取扱主任ハ其ノ保管スル糧食品中ヨリ適宜ノ品種數量ヲ支給スルコトヲ得此ノ場合ハ別表第二ニ定ムル單價ニ依リ其ノ價格ニ相當スル食料ヲ減給ス
- 二 艦船部隊前號ノ糧食品ハ最寄軍需部ヨリ受込ムベシ
- 三 第一號ノ糧食品購買費目ハ臨時軍事費、臨時軍事

費、衣糧費、糧食費トス
(別表添)

軍需衣第一〇二號
昭和十七年五月十五日

各海軍軍需部長殿
海軍省軍需局長

修補用古品被服供給標準改正ノ件通牒
昭和十六年十月九日軍需衣第二七八號通牒首題ノ件中左ノ通追加致候

- 記
- 二號事業服上衣(事業服袴)ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ
 - 軍帽 願革 二個
 - 陸戰事業服釦 二〇個
 - 劍帶附屬金具 二個
 - 半靴修理用屑革 二〇疋

(參照) 昭和十六年十一月八日海軍公報(部内限)

○ 辭 令

鐵道調査部技師 山中 敏雄
海軍省事務囑託ヲ解ク(昭和十六年海軍省)

海軍公報(部内限) 第四千九十一號 昭和十七年五月十五日

四八七

0130

海軍省事務囑託ヲ解ク(昭和十六年) 鐵道調査部事務官 土岐新四郎

支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(昭和十六年) 海軍大佐 犬塚 惟重

第百三海軍軍需部ニ於ケル事務ヲ囑託ス 武田 信近

但シ報酬年額千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(昭和同)

千八百圓 高橋 菊治

千五百圓 (各通) 尾形 迪吉

千貳百圓 徵用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(昭和同)

貳千七百六拾圓 從六位 後藤 自由郎

貳千四圓 (各通) 劍持 新一

徵用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(昭和同)

第二南遣艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス 塚本 繁

但シ報酬年額千參百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(昭和同)

(各通) 千田 文七郎

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス 板倉 恪郎

正五位勳四等 岡本 一策

岸本 廣吉

西村 治雄

小宮 義孝

田中 有藏

赤谷 山助

林 二三男

三井 晴太郎

西澤 政次郎

松本 利一郎

石田 久市

中村 公一

川端 道弘

庄司 得二

支那方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク

貳千四百圓 村手 源一郎

自給報酬年額千四百圓ヲ給ス(各通) 兒島 宇一

千六百五拾圓 永井 安

0131

賞今報勳千四百七拾圓ヲ給ス

山崎 定雄

軍令部事務囑託ヲ解キ第三南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

軍令部事務囑託ヲ解キ第三南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

軍令部ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千五百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

軍令部ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第四艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千五百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

從五位 山本 清二

但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千四百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

海軍省事務囑託ヲ解ク

海軍省事務ヲ囑託ス(以上同)

大阪警備府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

第二南遣艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

兼テ第二南遣艦隊事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

海軍省事務兼第二南遣艦隊事務ヲ囑託シ部内限奏任

城野 常美

小倉 信次郎

根津 滋男

鍋島 勇太郎

根本 榮次

東 登

奥本 理太郎

0132

海軍公報(部内限) 第四千九十一號

昭和十七年五月十五日

四八九

官待遇トス

(各通)

拓務技師 人見 芳夫
臺北帝國大學助教授
 兼臺灣總督府技師 澁谷 常紀
 朝鮮總督府技師 千田 貞雄

海軍省事務兼第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス
 (以上四、三十日同)

海軍豫備大尉 大隅 佳一

海軍省事務囑託ノ報酬トシテ金參拾五圓ヲ贈與ス

海軍省事務囑託ヲ解ク

海軍豫備少尉 横山 平太郎

海軍省事務ヲ囑託ス

遞信技師 黒田 憲次郎

海軍省事務囑託ヲ解ク

廣島縣立西條農學校教諭 金尾 覺郎

吳鎮守府ニ於ケル傷病將兵職業準備教育業務ヲ囑託

シ報酬年額六百圓ヲ贈與ス

從七位 田中 純成

海軍豫備大尉ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上十五、十五同)

海軍大佐 堀江 義一郎(艦本)

海軍中佐 金岡 國三(秋月)

(各通)

同 平田 勉(艦本)

同 田中正雄(同)

同 岡三知夫(同)

同 南六右衛門(軍務)

同 岩島二三(艦本)

同 岩城 繁(軍令)

海軍少佐 河村富良夫(舞鎮)

同 關根 英男(秋月)

海軍大尉 丹羽 廣(同)

同 海軍中尉 國嶋 清矩(同)

海軍機關大佐 大江 秀三(艦本)

海軍機關中佐 田中 千春(軍務)

同 上田 博(艦本)

同 同 增井三十四(舞廠)

同 同 安増 昇(舞鎮)

海軍機關少佐 宇都 政男(秋月)

同 伊藤 武夫(艦本)

海軍造船少佐 遠山 光一(同)

驅逐艦秋月審議委員ヲ命ス(同)海軍艦政本部)

海軍特務中尉 穴澤 金八

第二課勤務ヲ命ス(同)海軍氣象部)

<p>水路部附第四艦隊 司令部附海軍技手 石橋 博</p> <p>主トシテ兼務應ニ於テ服務スヘシ<small>(第四水路部長)</small></p> <p>水路部附第四艦隊地 隊司令部附海軍技手 空閑 光治</p> <p>主トシテ兼務應ニ於テ服務スヘシ<small>(五同)</small></p>	<p>○雜款</p>	<p>○司令驅逐艦變更</p> <p>第九驅逐隊司令ハ五月九日司令驅逐艦ヲ朝雲ニ變更セリ</p> <p>○司令潜水艦變更</p> <p>第二十一潜水隊司令ハ五月一日司令潜水艦ヲ呂號第三十三潜水艦ニ變更セリ</p>	<p>○郵便物發送先</p> <p>自今左ニ依リ發送相成度</p> <p>横須賀郵便局氣付 ヲ八六 ヲ壹貳六</p> <p>佐世保郵便局留置</p> <p>りよでぢやねる丸司令部</p> <p>(第五潜水戰隊司令部)</p>
<p>自今</p> <p>横須賀郵便局氣付</p> <p>ッ〇〇 ヲ壹參六司令部</p> <p>(第二聯合特別陸戰隊)</p> <p>隊、司令、隊機關長宛 朝雲</p> <p>軍醫長、主計長宛 峯 雲</p> <p>追テ山雲ハ當分ノ間分離行動ニ付當隊宛書類ニシテ同艦ニ關係アルモノハ同艦宛直送相成度</p> <p>(第九驅逐隊)</p>	<p>司令宛 第二十五號驅潛艇</p> <p>機關長、軍醫長宛 第二十六號驅潛艇</p> <p>主計長宛 第二十七號驅潛艇</p> <p>(第十三驅潛隊)</p> <p>本隊 横須賀郵便局氣付(軍事郵便)</p> <p>ウ一〇五 ヲ壹參四 海軍齋藤部隊</p> <p>殘留隊 從前通</p> <p>(臺南海軍航空隊)</p>	<p>○事務開始</p> <p>第二聯合特別陸戰隊ハ五月一日横須賀海軍砲術學校内ニ於テ事ヲ開始セリ</p> <p>○入校</p> <p>來六月一日入校ノ第七十一期高等科機雷術機雷練習生</p>	

海軍公報(部内限)第四千九十一號 昭和十七年五月十五日

0135

海軍公報(部内限) 第四千九十一號 昭和十七年五月十五日

四九二

及第十八期普通科機雷術機雷練習生ハ直接浦賀町本校
ニ入校セシメラレ度

(海軍機雷學校)

(別表第一)

品目	單價	價	記事	品目	單價	價	記事
調味用乾魚	ス一人一旬ニ對	五〇瓦		削節、煎魚等			
香料		五瓦		胡椒、カレー粉、辛子等			
トマトソース類		〇・〇三立					
嗜好食料							
本邦(南洋群島ヲ除ク)支那、亞細亞露領		七錢					
外國、南洋群島		十三錢					

(昭和十七年五月十五日海軍公報(部内限))

(別表第二)

品目	單價	價	記事	品目	單價	價	記事
砂糖	ニ一付	四四〇		調味用乾魚	ニ一付	一〇〇〇	等 鱈削節、煎魚
醬油	ニ一付立	三三〇		オスターソース	ニ一付立	五〇〇	
酢	同	二〇〇		トマトソース	同	六〇〇	
植物油	同	七〇〇		トマトケチャツ	同	九〇〇	
凝脂	ニ一付	八〇〇		香料	ニ一付	〇五〇	胡椒、カレー粉、洋辛子等
塩	同	〇六五					
麥粉	同	二七〇					

備考 本表掲記外ノ品種ハ供給軍需部ノ定ムル單價ニ依ル

0136

(限 内 部)

海軍公報(部内限)第四千九十二號

昭和十七年五月十六日(土)
海軍大臣官房

○令達

官房機密第五八五〇號
昭和二年勅令第三百八十一號ニ依リ同十五年五月十四日任用セラレタル海軍軍醫科、藥劑科士官(海軍武官服役令第八條ノ規定ニ依ル現役ニ服セシメラレタル者ヲ除ク)ハ海軍將校相當官現役期間特別第五條並ニ海軍武官服役令第三條第一項第一號ニ依リ當分ノ間服役期間ヲ延長ス

昭和十七年五月十三日

海軍大臣

○辭令

商工技師 大木 恒
海南警備府附ヲ命ス(海軍省)
海軍中佐 石原 宇市
第一課兼第二課勤務ヲ命ス(海軍省軍務局)

○雜款

○普通軍事教育圖書
昭和十七年四月中納庫セル普通軍事教育圖書左ノ如シ
(海軍文庫)

支那忠勇列傳 陸軍之部 第廿一卷	海軍省教育普及 第一三四四號二二	備品
馬來語大辭典	第一六九二號	備品
馬來語新辭典	第一六九〇號	備品
國防心理學	第一六八九號	備品
皇紀二千六百年紀念 國史總覽	同 第一六九一號	消耗品
海軍館壁畫		消耗品
ビルマ興亡詩		消耗品
戰線一萬五千海里		消耗品

海軍公報(部内限)第四千九十二號 昭和十七年五月十六日

四九三

0137

新統制經濟讀本

消耗品扱

五月一日(金)ヨリ十一月十日(火)迄トス
(第七根據地隊司令官)

○郵便物發送先
自今海軍橋本部隊(舊佐鎮二特)宛郵便物ハ左ニ依リ
發送相成度
吳郵便局氣付(軍事郵便)

七壹壹 七參五

(第三警備隊)

○郵便物宛名變更
自今第五潜水戰隊司令部宛郵便物ハ「海軍醍醐部隊」
トシテ發送相成度
(第五潜水戰隊)

○事務開始
門司地方海軍運輸部八幡出張所ヲ八幡監督官事務所内
ニ設置シ五月五日事務ヲ開始セリ

○殘務整理
第十砲艦隊殘務整理ハ第一號明治丸ニ於テ之ヲ行フ
追テ郵便物ハ横須賀郵便局氣付第一號明治丸殘務整
理委員宛
(第十砲艦隊殘務整理員)

○第二種軍裝着用期間
小笠原方面ニ於ケル海軍軍人ノ第二種軍裝着用期間ヲ

0138

(限 内 部)

海軍公報(部内限)第四千九十三號

昭和十七年五月十八日(月)

海軍大臣官房

○通牒

官房機密第六〇一六號

昭和十七年五月十六日

海軍次官

各廳長殿

海軍ニ於ケル亞鉛鐵板使用制限ニ關スル件申進

昭和十六年度首題使用實績ハ歴大ナル數量ニ上リ十七年度ハ更ニ増加ノ傾向ニ在ル處亞鉛需給逼迫ノ實情ニ鑑ミ亞鉛ハ主トシテ兵器用ニ使用スルコトトシ鍍金用等諸例則登載トシテハ極力使用制限ノ外無キニ付亞鉛鐵板ノ使用極度ニ制限相成度

官房第二九九四號

昭和十七年五月十八日

海軍次官

關係廳長殿

市町村會議員選舉ニ關スル件申進

首題選舉近ク全國的ニ施行セラルル處過般ノ衆議院議員選舉ノ際ノ例ニ倣ヒ候補者推薦團體ノ結成セラルル地方モアル趣ニ付テハ此種團體ノ職員ト爲ルコトハ軍人ハ勿論縱令軍屬ト雖モ右團體ノ性質ニ照シ軍紀律上ノ觀點ヨリ適當ナラズト認メラルルヲ以テ此種職員ノ委嘱ニ關シ交渉ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ニ應ゼシメザル様適宜部下指導ノコトニ取計ハレ度

航本第三八八七號

昭和十七年五月二日

海軍航空本部長

第二海軍技手養成所教育綱領左ノ通定ム

第二海軍技手養成所教育綱領

第一條 第二海軍技手養成所ニ於ケル教育ハ練習工員ニ對シ將來海軍技手トシテ職務遂行ニ必要ナル教育ヲ施スヲ本旨トス
第二條 教育ヲ大別シテ精神教育、學術技能教育及訓

海軍公報(部内限)第四千九十三號 昭和十七年五月十八日

四九五

0139

練トス

一 精神教育ハ教育勅語及勅諭ノ聖旨ニ基キ徳性ヲ啓發シ各其ノ本分ニ對スル自覺ヲ深メ至誠以テ職責ノ遂行ニ精進シ海軍工員ノ指導者タル氣品ヲ涵養セシムルヲ主眼トス

二 學術技能教育ハ機體、發動機、兵器、材料ノ科別及専門別ニ應ジ適切ナル學術ヲ修得セシムルヲ主眼トシ實習ニ依リ學術ノ應用ヲ領知セシメ且作業ノ演練技能ノ練磨ヲ爲サシムルモノトス

三 訓練ハ紀律ヲ正シ命令服從ノ觀念ヲ涵養シ部下統御ニ練達セシムルト共ニ心身ヲ鍛練セシムルヲ主眼トス

第三條 精神教育ニ於テ施スベキ科目左ノ如シ
修身、教育勅語及勅諭衍義、國體觀念、軍人精神、國民道德

第四條 學術技能教育ニ於テ施スベキ科目左ノ如シ
一 各科共通科目

- 英語 工業英語譯讀
- 獨語 初步
- 數學 代數、平面三角法、幾何、解析幾何、微積分

物理學 物性、熱、光、音、電氣磁氣、實驗

化學 無機及有機化學大意

力學 靜力學、動力學

材料力學 材料ノ彈性及強弱並ニ構造強弱

流體力學 流體力學ニ關スル理論及應用大意

機體學 諸機體要素ノ運動ニ關スル理論

材料學 航空用金屬材料ノ性質、製造法及加工法並ニ航空用非金屬材料大意

電氣工學 理論概要、電氣機械器具、電池及其ノ取扱法

工作法 鑄造、鍛造、熔接、木工、鍍金、機械仕上工作法

設計及製圖 幾何畫法、見取圖、構造圖、機械設計法

航空學一般 航空理論、機體、發動機、航空燃料及潤滑油、プロペラ、計器、搭載兵器及發着兵器大意

工場管理 工場管理、工場衛生

法制經濟及工廠會計 大意

二 専門科目

(一) 機體科

流體力學及航空力學、機體構造強度、機體振動、機體工作法、機體艙裝法、發動機理論及構造、
「プロペラ」理論及構造、風洞水槽及實驗、飛行機設計及製圖

(二) 發動機科

熱力學、發動機構造強度、發動機工作法、補機、航空燃料及潤滑油、燃燒及潤滑、發動機設計及製圖

(三) 兵器科

專門別ニ依リ學術項目ヲ次ノ通區分ス

(イ) 第一班

兵器學(射擊兵器、爆擊兵器、雷擊兵器、火工兵器)、火藥、彈道、兵器工作法、應用物理、精密測定法、兵器設計及製圖

(ロ) 第二班

兵器學(計器、光學兵器、電氣兵器)、計器及兵器工作法、轉輪理論、光學理論、電氣磁氣、交流理論、高周波工學、電灯及照明、電氣機械及器具、電氣材料、應用物理、精密測定法、計器並ニ兵器設計及製圖

(ハ) 第三班

兵器學(射出機、着艦制動裝置、滑走制止裝置、艦船艙裝、基地兵器)、兵器工作法、火藥、發動機理論及構造、應用物理、精密測定法、兵器設計及製圖

(四) 材料科

專門別ニ依リ學術項目ヲ次ノ通區分ス

(イ) 金屬班

冶金學、金屬材料學、金屬加工學、電氣化學及實驗、物理冶金及實驗、化學分析實驗、物理化學、分析化學、計畫製圖

(ロ) 非金屬班

無機及有機化學、物理化學、分析化學、製造化學(無機、有機)、應用電氣化學、合成化學工業、化學機械、化學分析實驗、非金屬材料加工及實驗、木材化學及工藝

第五條 訓練ニ於テ施スベキ科目左ノ如シ

教練 徒手及執銃教練

武技 劍道、柔道、銃劍術、遊泳術

體技 體操

武技ノ實施項目ニ關シテハ所長ハ必要ニ應ジ適宜之ヲ取捨スルコトヲ得

0141

第六條 前諸條ノ外時機ノ許ス限リ他科學術等ニ關スル概念ヲ教授シ又ハ勤務ニ必要ナル諸法規ヲ說示スルモノトス

○ 辭令

事務員 岸本 永一

第八海軍軍用郵便所員ヲ免ス(以上海軍省)

(各通)

内務技手 山田 哲郎

同 小畑 甚次郎

海南警備府附ヲ命ス(以上同)

第十一海軍航空廠發動機部検査官兼海軍航空本部造兵監督官海軍機關中佐 今田 敏

廣島監理官ヲ命ス

廣島監査官ヲ命ス

海軍總政本部出仕兼造船監督官海軍造船大佐 松田 良雄

神戸監理官ヲ命ス

神戸監査官ヲ命ス

海軍總政本部造船監督官兼造兵監督官海軍造船大佐 竹 中 康

大阪監理官ヲ命ス

大阪監査官ヲ命ス(以上海軍省)

第三課勤務ヲ命ス

海軍中佐 石原 宇市

第四課勤務ヲ命ス(以上海軍省兵備局)

海軍機關中佐 安田 忠吉

艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

佐世保海軍經理部 西岡 三郎
部員海軍主計少佐

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上海軍省)

海軍主計少佐 池田 法人
海軍省 經理局長)

第二課勤務ヲ命ス(以上海軍運輸部)

海軍機關中佐 加藤 武夫

○ 雜款

○司令潜水艦變更

第二潜水隊司令ハ五月十一日司令潜水艦ヲ伊號第十五潜水艦ニ變更セリ

○郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度

普通郵便 吳郵便局氣付
テ貳壹 テ壹六(軍事郵便)

0142

航空郵便

臺北郵便局氣付

テ貳壹　テ壹六（軍事航空郵便）

尙當方面ヘノ普通郵便物ハ著シク延着ノ状態ニ有之候條急ヲ要スルモノハ必ズ航空郵便扱ニ依リ送付方取計ヲ得度

（第百三海軍病院）

臺北郵便局氣付（軍事郵便）セ四五　セ貳〇

（第三十五航空隊）

吳郵便局氣付（軍事郵便）

（水雷艇友鶴）

○事務所設置

第三號掃海特務艇機裝員事務所ヲ大阪市此花區櫻島大
阪鐵工所櫻島工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第三十一號驅潛艇機裝員事務所ヲ五月十三日東京石川
島造船所深川工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○正誤

五月十四日通牒欄「經理第二〇〇號ノ八」ハ「經賞第
二〇〇號ノ八」ノ誤

○本日普通公報發行セズ

海軍公報（部内限）第四千九十三號　昭和十七年五月十八日

四九九

0143

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

海軍大臣官房

昭和十七年五月十八日 (月)

○ 雜 款

出征軍人軍屬及在支警察官並其ノ遺族等慰問金釀出明細表 (二月份)
 一金八千八百六拾五圓六拾錢也

内 譯

應 名	金 額	應 名	金 額	應 名	金 額	應 名	金 額
海軍大臣官房	五七〇	海軍省人事局 (含武功調査)	一〇九三	海軍艦政本部	七〇七三	海軍大學校	三七五〇
海軍省調査課	六六〇	同 教育局	五三三	海軍航空本部	六二七〇	海軍軍醫學校	一三三四
南方政務部	一七〇	同 軍需局	八三六	海軍施設本部	一五〇五	海軍經理學校	三五四八
海軍省電信課	三六〇	同 醫務局	一六八	東京海軍監督官 事務所	一六三〇	橫須賀鎮守府文 庫	九〇〇
海軍 文庫	三九〇	同 經理局	一六四九	侍從武官府	一三〇〇	同 軍法會議	一五四三
海軍省軍務局	二九五〇	同 法務局	一八九〇	水 路 部	一七〇四	橫須賀海軍人事 部	六二七〇
同 兵備局	八九〇	軍 令 部	三六六〇	海軍技術研究所	四〇四五	同 艦船部	一四三〇

海軍公報 (部内限) 號外

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年五月十八日(月)
海軍大臣官房

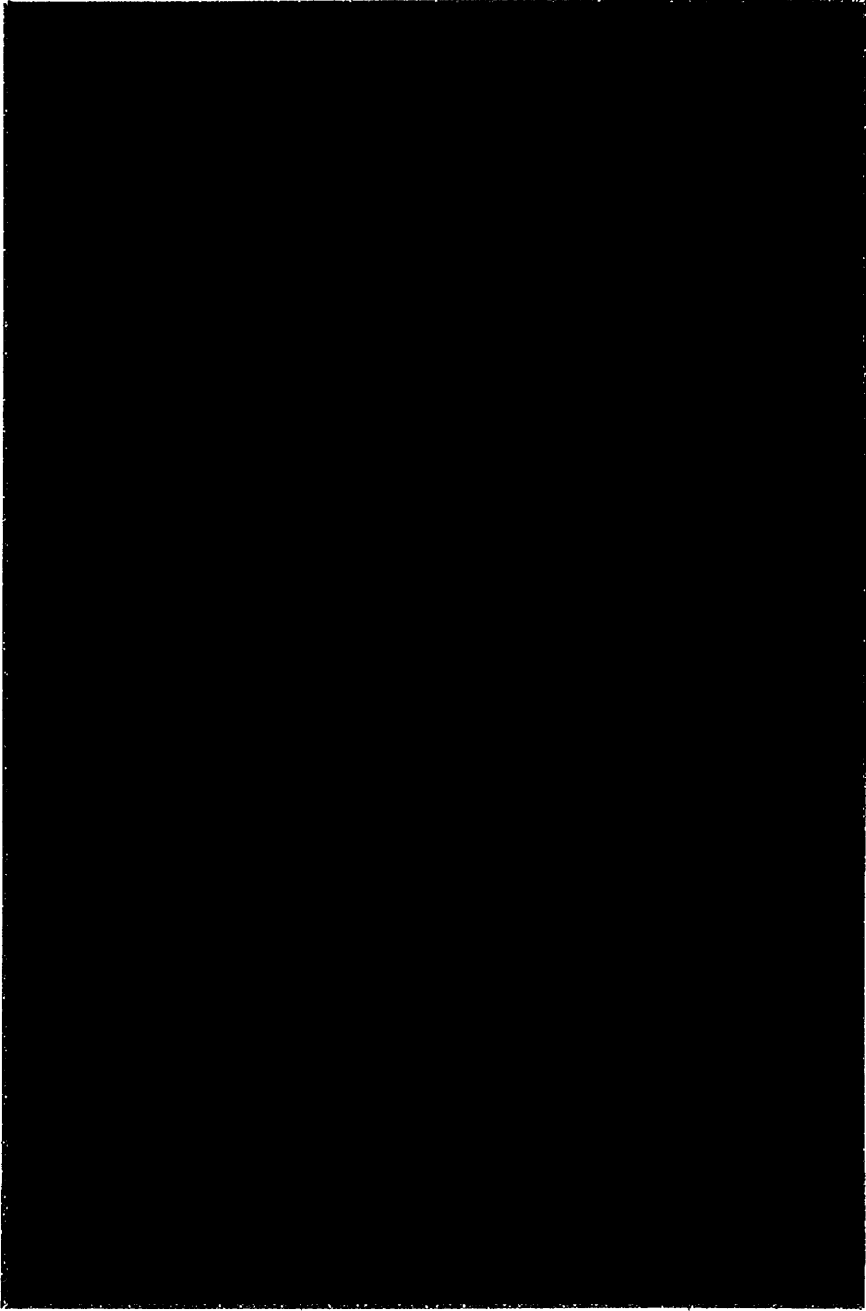
○ 雜 款

○ 懲 罰
懲罰言渡書

海軍公報 (部内限) 號外

0146

海軍公報 (部内限) 號外



0147

海軍公報 (部内限) 號外

三

0148

海軍公報 (部内限) 號外

四

0149

海軍公報(部内限) 號外

五

0150

海軍公報 (部内限) 號外

六

0151

海軍公報 (部内限) 第四千九十四號

昭和十七年五月十九日(火)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房機密第六〇三八號

昭和十六年官房機密第一〇九五〇號第一項但書中「鎮守府ニ屬スル海軍經理部」ヲ「海軍經理部(特設海軍經理部ヲ含ム)」ニ改ム

昭和十七年五月十八日

海 軍 大 臣

(参照) 前記官房機密第六〇三八號ハ主計長ヲ置カレザル特設艦船部隊ノ經費ハ所屬長官ニ於テ鎮守府ノ經理部ニ委託スルコトヲ得ル件ナリ

官房機密第六〇三九號

臨時軍事費特別會計歳入科目中左ノ通追加ス
昭和十七年五月十八日

海 軍 大 臣

款	項	目	節	解	疏	會計科目 電信略號
(軍資金)	(軍資金)	(雜收入)				

官房機密第六一二三號

公金類損害補償内規左ノ通定ム

昭和十七年五月十九日

海 軍 大 臣

公金類損害補償内規

第一條 破壊沈没其ノ他不可抗力ニ因リ艦船部隊内ニ保有セル公金類又ハ同所屬物品ヲ亡失毀損シタルトキハ所屬長官ハ本内規ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スコトヲ得

所屬長官本内規ニ依リ難シト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ上申スベシ

第二條 本内規ニ於テ公金類又ハ同所屬物品トハ左ノ各號ニ掲グルモノニシテ酒保委員、主計長、食卓長等ノ保管ニ係ルモノヲ謂フ
一 酒保資金又ハ販賣用物品

臨時指定
物品拂下代
本節ノ歳入金
ハ其ノ都度指
定ニ依ル
エナ

二 嗜好食費又ハ食品
 三 准士官以上各室ノ食卓金又ハ食料品
 四 其ノ他前各號ニ掲グルモノニ準ジ所屬長官ニ於テ特ニ必要ト認メタルモノ
 第三條 本内規ニ依ル補償ハ一事故ニ付各公金會計毎ニ五百圓以内トス
 第四條 本内規ニ依リ補償ヲ爲スハ公金會計自體ニ於テ損失ヲ填補スルコト困難ナル場合ニ限ル
 第五條 損害ノ補償ヲ爲スベキ額ハ損害ノ程度、會計ノ狀況等ヲ參酌シタル上概ネ左記標準ニ依リ決定スヘキモノトス
 一 現金ヲ亡失シタルトキハ其ノ金額以内
 二 物品ヲ亡失シ又ハ毀損シテ使用ニ堪エザルニ至リタルトキハ之ガ取得原價以内
 第六條 補償金ノ支出科目ハ特ニ定ムルモノノ外臨時軍事費、臨時軍事費、雜費、賠償金トス
 第七條 損害ノ補償ヲ受クル必要アルトキハ廳長ハ速ニ事由ヲ詳具シテ所屬長官ニ上申スベシ
 第八條 本内規ニ依リ補償ヲ爲シタルトキハ補償ノ金額、年月日及理由竝ニ前條ニ依ル上申書寫ヲ添附シ海軍大臣ニ報告スベシ

官房第一二二三號ノ五
 雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス
 昭和十七年五月十九日
 海軍大臣

公稱番號	船種	舊所屬	新所屬	別定數	記事
第一四三號	交通船兼曳船(三十艘)	馬公海軍	馬公海軍		
第一四五號	運貨船(百噸積)	馬公海軍	港務部		
第一四六號	同(五十噸積)	馬公海軍	港務部		
第一四八號	內火傳馬船(十二米)	港務部	港務部		
第一四九號	同	港務部	港務部		

○ 通牒

海人第一〇號ノ六九
 昭和十七年五月十九日
 海軍省人事局長
 關係各所屬長官殿
 囑託者身上取扱内規廢止ノ件通牒

大正八年一月十日海祕人第二號ヲ以テ制定セラレタル
首題内規ハ本年達第百三十三號發付ニ依リ廢止ノコト
ト了知相成度

海人第九〇號

昭和十七年五月十八日

海軍省人事局長

各所轄長殿

戶籍異動並ニ住所變更ノ際届出勵行ニ關
スル件照會

准士官以上戶籍ニ異動（成婚、出生、死亡、分家、轉
籍其他）ヲ生シ又ハ住所ヲ變更シタルトキハ速ニ届出
ヅベキノ處往々ニシテ之ガ届出ヲ怠リ爲ニ人事取扱上
不都合ヲ生ジタル例屢々有之候ニ付右届出ヲ勵行セシ
メラレ度

追テ届出未済ノ向ハ此ノ際至急届出シメラレ度

經物第一〇五號

昭和十七年五月十八日

海軍省經理局長

關係廳長殿

前金拂又ハ概算排契約者ニ關スル件通知

昭和十三年三月經物第一〇六號第一項第四號ニ依ル首
題ノ件左記ノ通承認致候

記

會社名	所在地
平田 仁三郎	大阪市旭區放出町七一七ノ二番地
黒川 武雄（虎屋）	東京市赤坂區表町三丁目一六番地
合資會社名古屋工範製作所	名古屋市中港區新川町二丁目一〇番地
日本醫療電氣株式會社	東京市麴町區有樂町一丁目一〇番地
兒玉工業株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目一八番地昭和ビル内
守谷工作機株式會社	東京市日本橋區吳服橋二丁目三番地
日本壘工業株式會社	山口縣厚狹町大字厚狹第一七六番地ノ一
城島瓦共販株式會社	福岡縣三潁郡城島町大字城島七一四番地
合資會社丸加金屬工業所	大阪市大正區南恩加島町一ノ八八番地
合資會社鈴木機械製作所	東京市淀橋區淀橋六九九番地
株式會社大阪プレス製作所	大阪市西成區出城通四丁目六番地

海軍公報（部内限）第四千九十四號

昭和十七年五月十九日

五〇三

株式會社 菱美電氣商會	東京市麴町區丸ノ内二丁目二番地	井上金屬工業株式會社	大阪府北區都島北通一ノ一五
山武工業株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目六番地	蒲田ダイカスト株式會社	東京市日本橋區室町三ノ一不 動ビル内
株式會社 塚本電機製作所	東京市京橋區銀座西四丁目三ノ二番地	石産精工株式會社	大阪府北區堂島濱通一ノ三三
早川金屬工業株式會社	大阪府住吉區西田邊町二五番地	株式會社 田邊鐵工所	鹿児島市郡元町二四〇〇
臺灣水産工業株式會社	高雄市三塊厝五一三番地	東洋計器電機株式會社	東京市目黒區中目黒二ノ三四 六
大阪螺旋銜株式會社	大阪府西成區中開二丁目一〇番地	日本特殊鋼管株式會社	東京市麴町區丸ノ内三ノ四
經物第一〇六號	昭和十七年五月十八日	山中保二(山中兄弟鐵工所)	堺市柳元町西一ノ九
關係廳長殿	海軍省經理局長	艦本機密第一號ノ五一八〇	昭和十六年五月十九日
前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件	通知	關係廳長殿	海軍艦政本部長 海軍省軍務局長
昭和十六年九月經物第一六三號別冊首題承認者名簿中	左記ノ者今般新ニ海軍購買名簿ニ登録セラレタルニ付	彈丸複底螺用銅座ニ關スル件申進	彈丸ニ彈底信管裝着後修理、改造、陸揚等ノ爲之ヲ離
前記承認者名簿ヨリ削除致候	記	脱セントスル場合ハ銅座ニ關シ左記ノ通處置相成度	一 信管離脱前豫メ最寄海軍工廠ニテ修理請求手續ニ
旭電化工業株式會社	東京市麴町區丸ノ内三ノ一〇		

依リ新銅座ヲ受入レ信管離脱後ノ彈丸ニハ常ニ新銅座ヲ装着シ置クモノトス但シ急ヲ要スル場合ハ修理材料トシテ供給シアル銅座豫備品ヲ一時融通シ置クモノトス

二 舊銅座ハ速ニ修理請求工廠ニ送付スルモノトス

三 信管ヲ離脱シタル後複底螺ノ緊締ハ新銅座ニ壓痕ヲ生ゼザル程度トス

四 銅座ノ取扱ハ十分慎重ヲ期シ其ノ表面ニハ些少ナリトモ瑕瑾ヲ生ズルコトナカラシムルヲ要ス(信管装着時複底螺ノ前端ヲ銅座ニ十分嚙込マシムルト雖モ銅座ニ瑕瑾アルトキハ其ノ機能ヲ十分ナラシメ得ザルヲ以テナリ)

艦本第一號ノ五一八一

昭和十七年五月十九日

海軍艦政本部總務部長

關係廳長殿

五十口徑十二種七砲藥囊盒ノ件照會

首題藥囊盒ハ之ニ裝藥ヲ入レタル儘火藥罐ニ收納シ得ル如ク逐次改造ノコトニ定メラレ候處右ノ狀態ニテ長期間貯藏ノ可否ニ關シテハ目下試驗中ニシテ未ダ結論ヲ得ラレザルニ付當分ノ間給藥上必要ナル短期間

内ニ限リ收納シ其ノ他ノ場合ニハ必ず別格納スルコトニ取計ヲ得度

○ 辭 令

(各通)
海軍大佐 林 榮 選
海軍中佐 石原 隼 雄
海軍機關中佐 堀谷 憲 雄
南西方面施設制度調査委員會委員ヲ命ス(以上海軍省)

海軍學生銓衡委員ヲ命ス
海軍武功調査委員ヲ命ス
海軍大佐 小川 貫 璽

海軍技術會議議員海軍中佐 井上 士 郎
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(以上海軍省)

○ 雜 款

○ 旗艦變更
第一艦隊司令長官ハ五月十五日旗艦ヲ山城ニ變更セリ
○ 郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

海軍公報(部内限)第四千九十四號

昭和十七年五月十九日

五〇五

横須賀郵便局氣付(軍事郵便)

ウ〇〇 ヲ壹參六司令部

(第二聯合特別陸戰隊)

佐世保郵便局氣付(軍事郵便)

イ壹九 イ四六(海軍友成部隊)

(第一警備隊)

吳郵便局氣付(軍事郵便)

航空軍事郵便ハ臺北郵便局氣付

(特務艦筑紫)

○試験問題發送

第十七期高等科航空兵器術
第五十一期高等科整備術 練習生採用試験問題

右五月十二日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向
ハ最寄海軍人事部、警備府又ハ當隊ニ至急通知相成度

記

一 單獨試験施行豫定ノ所轄ハ直送

二 聯合試験用ノモノハ各海軍人事部長、警備府參謀

長宛送付(聯合試験施行豫定ノ艦船ニシテ豫定變更
ノタメ聯合試験不可能ノ向ニ對スル分トシテ若干ノ
餘裕ヲ含ム)

(横須賀海軍航空隊)

○開隊

當隊五月十五日開隊、佐世保第一海兵團内ニ於テ事務

ヲ開始セリ

追テ郵便物ハ當分ノ間佐世保第一海兵團内海軍月岡
部隊宛

(佐世保鎮守府第五特別陸戰隊)

海軍公報

(部内限) 第四千九十五號

昭和十七年五月二十日(水)
海軍大臣官房

○令 達

官房第三〇五六號
諸例
昭和十七年五月二十日

海軍省 副官

各廳長 殿

海軍潜水學校練習生修業徽章佩用制限
ニ關スル件通牒

首題ノ徽章ハ當分ノ間防牒ノ必要上其ノ勤務廳以外ニ
於テハ佩用セザルコトニ定メラレ候

官房機密第六一八七號

本年達第五百五十四號潜水艦名變更ノ際舊艦名ノ職名ヲ
有スル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒ
ズシテ新艦名ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得
ベシ

昭和十七年五月二十日

海軍大臣

○通 牒

艦本第一四號ノ二四三三
第一海軍技手養成所教育綱領左ノ通定ム
大正八年四月十日技本第一三〇三號海軍技手養成所教
育綱領ハ之ヲ廢止ス
昭和十七年五月二日

海軍艦政本部長

第一海軍技手養成所教育綱領

第一條 第一海軍技手養成所ニ於ケル教育ハ練習工員
ニ對シ將來海軍技手トシテ職務遂行ニ必要ナル教育
ヲ施スヲ本旨トス

第二條 教育ヲ大別シテ精神教育、學術技能教育及訓
練トス

一 精神教育ハ教育勸諭及勸諭ノ聖旨ニ基キ徳性ヲ
啓發シ各共ノ本分ニ對スル自覺ヲ深メ至誠以テ職
責ノ遂行ニ精進シ海軍工員ノ指導者タル氣品ヲ涵

養セシムルヲ主眼トス

二 學術技能教育ハ造船、造機、造兵、機械工作ノ科別及各専門別ニ應ジ適切ナル學術技能ヲ修得セシムルヲ主眼トシ實習ニ依リ學術ノ應用ヲ領知セシメ且作業ノ演練技能ノ練磨ヲ爲サシムルモノトス

三 訓練ハ紀律ヲ正シ命令服從ノ觀念ヲ涵養シ部下統御ニ練達セシムルト共ニ心身ヲ鍛練セシムルヲ主眼トス

第三條 精神教育ニ於テ施スベキ科目左ノ如シ
修身 教育勸語及勸諭衍義、國體觀念、軍人精神、國民道德

第四條 學術技能教育ニ於テ施スベキ科目左ノ如シ
一 各科共通科目

- 英 語 工業英語譯讀
- 獨 語 初歩
- 數 學 代數、平面三角法、平面及立體幾何、解析幾何、微積分
- 物 理 學 物性、熱、光、音、電氣磁氣、實驗
- 力 學 靜力學、動力學
- 化 學 一般化學、應用化學

材料力學 材料ノ彈性及強弱

水 力 學 靜及動水力學及水力機械

機 構 學 諸機械要素ノ運動ニ關スル理論

工業材料學 工業用材料ノ性質、製造法並ニ加工法

電氣工學 理論概要、電氣機械器具、電池及其ノ取扱法

工 作 法 鑄造、鍛造、熔接、機械仕上工作法

設計及製圖 幾何畫法、見取圖、構造圖、機械設計法

造船學造機學 大意

工場管理 工場管理、工場衛生

法制經濟及工廠會計 大意

二 専門科目

(一) 造船科

船舶算法、復原性、動搖振動、抵抗、推進、旋回、船體構造理論、船體構造、艦裝、造船材料、造船工作法、運用術大意、造船計畫及製圖

(二) 造機科

各種熱機關、タービン、内火機械、罐、ピストン機械、補助機械、附屬装置、推進器、軸系、造機材料、造機工作法、燃料、造機計畫及製圖但シ鑄工員出身者ニ對シテハ本科目ノ一部ヲ造兵科製鋼班専門科目ノ一部ヲ以テ代フルコトヲ得

(三) 造兵科

(イ) 砲煩班

砲身、砲塔、砲架、機銃、彈丸及藥莢、火藥、火工品照準器、射擊指揮装置、彈道、砲煩計畫及製圖

(ロ) 水雷班

魚雷、機雷、爆雷、發射機、發射指揮装置、火藥火工品、掃海具空氣壓縮ポンプ、水雷關係流體力學、水雷計畫及製圖

(ハ) 電氣班

電氣磁氣、交流理論、高周波工學、電燈及照明、電氣機械及器具、電池、電氣兵器、艦船電氣装置、電氣化學、電氣材料、電氣計畫及製圖、電信電話、電波傳播、無線兵器、艦船無線諸装置、電氣音響、音響兵器

(ニ) 航海光學班

精密工作法(共通)、電氣磁氣、航海兵器、航海兵器計畫及製圖(以上航海)、幾何光學、光學兵器、照準器及射擊指揮装置、光學兵器計畫及製圖(以上光學)

(ホ) 製鋼班

鐵冶金、特殊鋼、製造冶金、金屬組織、分析法、溫度測定法、加熱處理法、砲身製造法、製鋼計畫及製圖

(四) 機械工作科

原動機、工作機械、工具及治具、測定機器、機械工作法、金屬材料及試驗法、精密測定法及檢査法、計畫及製圖

第五條 訓練ニ於テ施スベキ科目左ノ如シ

敬 練 徒手及銃銃教練

武 技 劍道、柔道、銃劍術、遊泳術

體 技 體操

武技ノ實施項目ニ關シテハ所長ハ必要ニ應ジ適宜之ヲ取捨スルコトヲ得

第六條 前諸條ノ外時機ノ許ス限り他科學術等ニ關スル概念ヲ教授シ又ハ勤務ニ必要ナル諸法規ヲ説示ス

ルモノトス

〇 辭令

海軍中佐 七字 恒雄(伊二潜)
 海軍中佐 堀 武雄(吳廠)
 海軍大尉 上拾石 康雄(伊二潜)
 (各通) 海軍機關中佐 伊藤 喜六(吳廠)
 海軍機關少佐 清水 清直(伊二潜)
 伊號第十一潜水艦航空兵裝審議委員ヲ命ス(以上 三月廿四日 海軍艦政本部)

〇 雜款

〇 旗艦變更
 第九戰隊司令官ハ五月十三日旗艦ヲ北上ニ變更セリ
 第一航空艦隊司令長官ハ五月十八日旗艦ヲ赤城ニ變更セリ
 〇 郵便物發送先
 自今左ニ依リ發送相成度

千葉縣館山市

館山海軍航空隊内 海軍吉良部隊司令部

(舊海軍松定部隊司令部)

(第二十二航空戰隊司令部)

同 海軍山縣部隊

(美幌海軍航空隊)

吳郵便局氣付(軍事郵便)

山良司令部參謀

(第四水雷戰隊司令部)

吳郵便局經由(軍事郵便)

第四十三海軍軍用郵便所氣付

(第三十一驅逐隊)

第一哨戒艇隊宛郵便物ハ自今直接各號哨戒艇長(除第三十七號哨戒艇)宛送付相成度

追テ第三十七號哨戒艇ノモノハ舞鶴海軍人事部宛發送相成度 (第一哨戒艇隊殘務整理員)

〇 事務所設置

伊號第三十六潜水艦艦裝具事務所ヲ五月十四日横須賀海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

〇 事務開始

榆林地方海軍運輸部ハ四月二十五日海南海軍軍需部内

ニ於テ事務ヲ開始セリ

第八十五通信隊ハ五月十五日佐世保海軍通信隊内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○残務整理

舊第一防備隊(妙高丸防備隊)残務ハ第二十一特別根據地隊バタバヤ分遣隊ニ於テ之ヲ行フ

追テ郵便物發送先ハ

吳郵便局氣付 七貳貳 七參九 七參壹

妙高丸防備隊残務整理員宛

(第一防備隊)

○艦名呼稱ニ關スル件

本艦艦名ハ「隼鷹」ト呼稱ニ付電報等發信ニ當リ留意ヲ得度

(軍艦隼鷹)

○入隊

今般採用セラレタル第十六期高等科航空兵器術練習生第十九期普通科航空兵器術練習生中射爆專修者ハ夫々入隊期日迄ニ直接館山海軍航空隊ニ入隊セシメラレ度

(横須賀海軍航空隊)

○正誤

四月十四日令達官房第一一二三號ノ四公稱番號ノ欄中

「第二六一四號」ハ「第三六一四號」ノ誤
本月十八日通牒欄官房第二九九四號中「此種團體ノ職員ト爲ルコトハ」ノ下ニ「現役及召集中」ヲ脱ス

海軍公報(部内限) 第四千九十五號 昭和十七年五月二十日

五一

0162